

2017年のシーズンインを迎えて

会長 富樫 信浩

昨年1月に当協議会主催で開催しました「N I I G A T A 野球サミット2016」から早いもので1年が過ぎました。その際に発表しました『新潟メソッド』の啓発・普及を、この1年の重点活動の一つとして掲げてまいりましたが、下記の新入団・新入部員アンケート結果に表れていますように、野球手帳の認知度に比べると、選手諸君には、まだまだ低い認知度となっております。しかしながら、当協議会としては、加盟団体のご協力とご理解を得て、各チームに配付し、広くPRできたことと、『新潟メソッド』の更なる理解と実践に向け各地域で研修会を開催していただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、当協議会へ新たに「新潟ボーイズ」(日本少年野球連盟ボーイズリーグ長野県支部所属)が加盟いたしました。これにより加盟団体は計10団体となり、当協議会の目指す「野球を通じた友情の育成」と「スポーツ障がい予防」の推進を、より一層の協力関係を築きながら邁進することで、新潟から全国へと広げていきたいと考えております。

そこで、選手・保護者の認知度向上を図るため、指導現場における『新潟メソッド』の正しい理解と積極的な活用が行えますよう研修会の開催を広く推奨し、県内全地域を網羅できるような派遣講師の育成に取り組んでまいります。また、当協議会の情報発信の一つとして、ウェブサイト(<http://nyboc2015.ec-net.jp/>)を開設しました。本誌「米スターTopics」とともに、当協議会の取り組みや加盟団体の情報などを掲載してまいりますので、ご覧いただきますようお願い申し上げます。各チームに所属する選手がケガや故障なく、野球が心から楽しくなるシーズンとなりますようお願いしております。

新入部員・新入団員対象のアンケートを実施

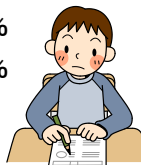
2016年に入団・入部した選手を対象(小学生は抽出クラブ、中高生は1年生全部員)

調査期間は、2016年6月～7月に、小学生の225名(学童・スポ少209名、リトル16名)、中学生の1,430名(中体連1,363名、リトルシニア59名、ヤング8名)、高校生の957名から協力いただき、20項目からなるアンケートに回答いただきました。そのうちの9項目の結果について、以下のとおり報告します。

●小学生の入団の理由

- | | |
|--------------------|-----|
| ①野球が好きだから、楽しいから | 42% |
| ②友達がやっているから、誘われたから | 20% |
| ③兄弟がやっているから | 33% |
| ④親にすすめられたから | 19% |
| ⑤自分を成長させたいから | 9% |

野球を「好き・楽しい」と感じている。



●一番好きな(楽しい)技術は?

- | | |
|---------|----------------|
| ①バッティング | 小58%、中50%、高54% |
| ②スローイング | 小10%、中17%、高20% |
| ③ゴロ捕球 | 小5%、中10%、高11% |
| ④フライ捕球 | 小10%、中13%、高7% |
| ⑤走塁 | 小10%、中6%、高4% |

バッティングが好きが、各世代とも多い。



●一番苦手(うまくなりた)技術は?

- | | |
|----------|----------------|
| ①バッティング | 小13%、中18%、高20% |
| ②ゴロ捕球 | 小17%、中22%、高30% |
| ③フライ捕球 | 小23%、中8%、高4% |
| ④走塁 | 小16%、中18%、高15% |
| ⑤バント等の小技 | 小18%、中21%、高11% |

30%以上がゴロ・フライ捕球を苦手もしくは上達したいという思いが表れている。また、バント等の小技が小中では多いことが特徴的。



●いつまで野球を続けたいか?

- | | |
|------------|----------------|
| ①小学生まで | 小20% |
| ②中学生まで | 小13%、中26% |
| ③高校生まで | 小20%、中32%、高55% |
| ④大学生まで | 小2%、中4%、高17% |
| ⑤社会人まで | 小4%、中7%、高14% |
| ⑥プロ・メジャーまで | 小35%、中25%、高10% |

高校までが多いが、小中ではプロ・メジャーを目指す特徴がうかがえる。



- 野球肘検診を受けたことがありますか？
「いいえ」の回答 小79%、中57%、高55%



小学生は入団したばかりのため機会がないためだが、中高生の半数以上が「ない」と回答した。「野球フェスタ」の活用を期待する。

- 野球手帳を知っていますか？
「はい」の回答 小50%、中76%、高78%



中高生の認知度が 80%を下回っており、各チームへ再度、呼びかけが必要と思われる。

- 今までに練習を休むような故障を感じたことは？
「ある」の回答 小11%、中37%、高64%

世代が上がるにつれて、割合が高まる。指導者には参考にしてほしい数値である。

- 痛みを感じた部位は？（全世代合計）
肩 18%、肘 31%、腰 11%

痛みを経験した部位の半数の選手が「肩肘」であり、野球肘検診の重要性がうかがわれる。



- 新潟メソッドを知っているか？
「はい」の回答 小17%、中58%、高15%

高校生の認知が最も少ないという残念な結果となった。

本県の青少年野球選手の実態を把握し、今後の活動に生かすことを目的に、まずは新入団・新入部員を対象にアンケートを行ったところ、様々なことが見えてきました。上記で紹介した内容以外にも、希望するポジションでは意外と外野手が多かったり、4番を希望する選手が中高では少なかったり…。また、けがや故障への不安はどの世代でも多くの選手が抱えており、中高生では特に勉強との両立に多くの選手が不安を感じています。

アンケート結果は各団体へ送付していますので、指導者の皆様は是非参考にいただき、今の小中高生の実態を踏まえ、一人でも多くの選手が「野球が楽しい!」と感じられるような活動を是非ともお願いします。また、「新潟メソッド」や「野球手帳」の普及、活用についても、ご協力をお願いします。

卒団・卒部アンケートの結果についても、随時紹介していきます。

＜調査・研究委員長 竹田直人＞

野球フェスタ2016を開催

昨年末の12月17日（土）から18日（日）の2日間、HARD OFF ECO スタジアム新潟を会場に、当協議会主催の4回目となる「野球フェスタ 2016」が開催されました。今年も肩・肘検診、トレーニング教室、コンディショニング教室、小学生野球教室、中高生医事相談のほか、今回は、高校生対象の体幹トレーニング講座やマネージャー救急対応、小学生ボールリレーコンテストと新たなプログラムを用意し、当協議会加盟の野球障害ケア新潟ネットワークが中心となり、昨年より400名多い、約1,300名の参加の下、行われました。

応募チームの多かった小学生野球教室では、新潟医療福祉大学硬式野球部と（株）バイタルネット硬式野球部の協力を得て、実りある講習が行えたものと思います。また、マネージャー救急対応では、練習中に熱中症で倒れた生徒の処置について、真剣に講習を聞き、不測の事態にならないよう学んでいる姿が印象的でした。

初めて参加した高校の指導者からは、「このような機会は、生徒も含めて、たいへん参考になった。次回も参加したい。」との声を聞きました。この言葉が語るように、今回、小学生の参加数の激増はあったものの、中高生にも対応したプログラムに改良して実施しましたが、この事業がまだまだ周知されていない点があり、中高生の参加者数については、周知方法の改善などが必要と考えています。

また、宮城県の石巻野球協会や栃木県の医師などが会場に訪れ、それぞれの地域においてもこのような事業が開催できないかなどを含めて、熱心に視察していました。NYBOCの取組みが、全国へと広がりつつあります。



肩肘検診



野球教室



体幹トレーニング



新潟県青少年
野球団体協議会
Niigata Youth Baseball Organisation Council

Member's Information



(公財) 日本リトルリーグ野球協会 リトルリーグ信越連盟新潟ブロック

県内14チームが加盟する
硬式野球の団体です！

2017年 あけましておめでとうございます。

加盟団体各位におかれましては、新年のスタートを切られた事と思います。

私たち新潟ブロックは、県内6リーグからなり、信越連盟(全26リーグ)に所属しています。リーグの特徴は硬式球を扱い、選手は12歳まで在籍しています(中学1年まで)。選手への負担軽減のため、投手から本塁間は約14m、塁間も約18mと学童野球より短く、投手の球数制限も先進的に採用しています。

さて、昨年は1月の新潟県青少年野球団体協議会主催による「野球サミット2016」が初開催され、大変な反響を呼びました。また、夏には日米大学野球や全国中学校軟式野球大会が共に新潟で開催され、野球熱が高まった年でありました。

然しながら少子化という現実が少年野球人口にも押し寄せ、各チームにおかれましてはチーム維持、技術力の向上という相反する現実と日々、向き合いながらお過ごしのことと思います。

本年は新潟県青少年野球団体協議会全体で野球人口減少に立ち向かい『始めよう！楽しもう！続けよう！』を合言葉に野球人口の拡大に注力しようではありませんか。

3月にはWBCが開催されます。侍ジャパンの活躍と、再び、野球熱の高まりを期待すると共に、皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

リトルリーグ信越連盟 新潟ブロック理事長 小林由明



チームの横顔

中学硬式編

新潟ポニーベースボールクラブ

中学生硬式野球の未来へ

現在、中学生の硬式野球団体は5団体あります。

プロ野球選手を多く輩出している、今話題の早稲田実業の清宮幸太郎などが卒団したリトルシニア中学硬式野球協会、ダルビッシュや田中将大などの日本野球連盟ボーイズリーグ、アメリカが発祥で大リーガーが最も関わっているポニーリーグ(日本ポニーベースボール協会)、それにヤングリーグ(全日本硬式野球連盟)、九州を中心にあるフレッシュリーグであります。(数年前には、サンリーグ[北海道]はボーイズリーグと統合、ジャパニリーグ[北九州]はポニーリーグと統合)

以前はこれらの団体の交流戦も一切できなかったのですが、ジャイアンツカップ(先月号で掲載)を始めプロ野球球団が本拠地で交流大会を開催するようになり、交流戦が行われるようになりました。ちなみに、千葉県はマリーンカップ(千葉ロッテマリーンズ主催)、埼玉県はライオンズカップ(埼玉西武ライオンズが主催)、神奈川県はベイスターズカップ(横浜DeNAベイスターズが主催)などの大会を開催しています。尚、フレッシュリーグを除く4団体が、東京駅に隣接するサピアタワー8階に事務所を構えています(リトルリーグも)。各団体の登録チーム数を含む団体の大小により事務所の広さが違ってきます(ちなみに、ポニーリーグは机2つが精一杯です)。

野球離れが進んでいる昨今、学童チームは2800チーム登録が、今は1200チームを割ろうとしている現状に於いて、同じフロアに事務局があるのなら中学硬式野球団体は、一本化の方向が望ましいのではないかと思います。野球人口減で選手不足、選手の取り扱い、保護者の経費負担などを考えますと、「おらが頭だ」や「うちのリーグは他と違うんだ」より、選手・保護者を中心に考える時期にきているように思います。

新潟ポニーベースボールクラブは、夏休みに開催している昨年で23回目を迎えた『日本ポニーベースボール新潟大会』を5年前より交流大会として、今まで通り関東、東北からのポニーリーグチーム、ボーイズリーグ(群馬より4チーム)、リトルシニア、ヤングリーグ(新潟・福島二本松)の参加により大会を開催しました。尚、一昨年は韓国(ソウル)リトルシニアの3チームも出場して、異次元のベースボールを経験することができました。結果は、韓国チーム同士による決勝戦になりました。ほか、5年前には、アメリカテキサス州のポニー選抜チームが、4年前には、南米エクアドルチームがオープン参加で大会を盛り上げてくれました。また、余談ですが、昨年の甲子園優勝投手の作新学院・今井達也(現埼玉西武ライオンズ)も、鹿沼ポニー時代、2年連続で新潟大会に出場しています。

今後も新潟で、中学生の交流大会を開催し新潟のPRと中学生の硬式野球の隔たりを無くして行けたらと思います。

今年も、8月19日、20日の2日間に、ハードオフエコスタジアムを主会場として開催予定です。
ぜひ、足を運んで応援して下さい。



アメリカ・テキサス州選抜チーム来訪

みなさんのNYBOC理解度を試すクイズです！○に入る漢字は何でしょう？

NYBOC & METHOD チャレンジ

第3回

- 「新潟メソッド」の願いの1つ、「仲間に感謝し、励まし合い、良い友人関係を作り、○○の輪を広げてほしい。」()
- 「新潟メソッド」の指導者・選手諸君へのメッセージで、「グラウンドに○はいません。」()
- 「新潟メソッド」で推奨する「練習試合では、なるべく多くの選手が○○でできるよう」に心掛けよう！()

※答えはP4にあります。

研修会で「新潟メソッド」の理解を深めよう！

NYBOCでは「新潟メソッド」の理解を深め、全県に広めるために、NYBOCの担当者を講師として派遣します。それぞれの団体もしくは地域・地区の抽選会や会議、市町村体協など、「新潟メソッド」研修会をぜひ開催しましょう。研修時間は30分から1時間程度を基本としますが、お気軽にご相談ください。県内全域へ対応します。

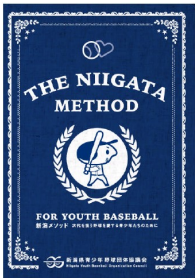
お問い合わせは、各団体を通じるか、NYBOC事務局へE-mail でお願
いします。 NYBOC E-mail : nyboc@grace.ocn.ne.jp



〔派遣実績〕北信越ブロックスポーツ少年団、上越市野球連盟（「育てよう野球少年」実現に向けて講演会）
十日町市スポーツ協会、燕市ロータリークラブ、新潟県高校野球連盟リーダー研修会 など

あなたも「新潟メソッド」を冊いかがですか？

NYBOCは、新潟の目指すべき野球スタイルをまとめた「新潟メソッド」を希望者へ販売しています。読みやすいように作成してありますので、ご家族のみなさんやチームで、ご一読ください。



この「新潟スタイル」を全国へ！

新潟市の学童・スポ少大会では指導者必携となっています。

購入希望は、E-mail で

nyboc@grace.ocn.ne.jp

へお問合せください！

ケガのないチーム作りを目指して！

肩肘検診やコンディショニング講習会などを考えている団体やチームのみなさんへ、野球障害ケア新潟ネットワークの派遣についても、NYBOCへお問合せください。



←肩肘検診
＜野球フェスタから＞
↓トレーニング教室



〜〜編 集 後 記〜〜

昨年11月に開催されたNPBドラフト会議で、3名の本県関係者が指名を受けた（育成枠含む）。彼らの野球の出発点は、県内の学童・スポ少のチームである。その後、新潟で過ごした時期は、「中学まで」、「高校まで」、「大学まで」と三者三様で異なるが、彼らの存在は、今回のアンケート結果からも「プロ・メジャー」まで野球を続けたいと思う多くの小中学生に、思い描くだけの夢ではなく、実現可能な夢になってきている。

先日、北海道日本ハムのスカウト・大淵 隆氏が講演で、「技量は別にし、誰よりも『プロになりたい』と強く思う選手が入団後に活躍している」という話があった。大人の物差しで選手の将来を決めて、夢を摘むことなく、球児の持つ強い意志と技量、そして、野球を楽しんでいる心を指導者には育ててほしいと願うものである。

＜広報委員長 中原丈二＞

NYBOC & METHOD チャレンジ

第3回の答え

1. 友情
2. 敵
3. 出場

次号につづく！

始めよう！楽しもう！続けよう！



イメージ
キャラクター
マイ
☆スター

野球を通じた友情の育成と
スポーツ障がいの予防に取り組む
"21c型穂波プロジェクト"始動！
ニイガタほなみ

「いいプレーには
自然と拍手がわく
グラウンドっていいよね
敵味方なく、ね！」



NYBOC
Niigata Youth Baseball Organization Council
新潟県青少年野球団体協議会

NYBOCは新潟メソッドを推奨しています